

株式会社 JTB 法人東京
(現 JTB コーポレートセールス)

×

日本学生観光連盟

共同プロジェクト
平成 24 年度成果報告書

平成 25 年 1 月 9 日

日本学生観光連盟

代表 藤野里帆

作成者 諸角智亜

目次

〈1〉 活動について … 2

〈2〉 活動報告 … 4

〈3〉 総括 … 8

〈1〉活動について

[1]活動概要

本活動は昨年度も行われた株式会社 JTB 法人東京（現 JTB コーポレートセールス、略称:BWT）様との共同プロジェクトを踏襲したものである。昨年度との大きな違いは、最終目的を10月に開催されたBWT様主催の学生事業提案コンテスト本選出場と設定したことである。

昨年度は4チームに分かれて実施された。本年度は最終目標を見据え、昨年度に比べモチベーションの高さを重視した結果、参加人数が少なかったため1チームでの活動となった。

1か月に1度のBWT本社でのミーティングを軸に、毎週の学生ミーティングを基本に活動を行った。

[2]活動目的

本活動の目的は以下の3点である。

- ①社会で必要不可欠とされる、ロジカルシンキングやプレゼンテーション能力、マーケティング能力を実践的に身に付けること
- ②大学の講義を受講しているだけでは得ることのできない知識を得ること
- ③他大学の学生や学年の異なる学生と目標を共に課題解決に向けて協力することで、新たな刺激を得ること

[3]参加学生

大学問わず日本学生観光連盟(略称:学観連)に所属している学生、もしくは本プロジェクトに参加する為に入会した学生のうち、活動内容のレベルの高さから、参加対象は主に2・3年生に設定した。

しかし、やる気・興味次第では1年生の参加も可能とした。

[4]活動スケジュール

以下のスケジュールのもと、約半年間活動を行った。

5月上旬 参加希望者の公募

5月19日(土) プロジェクト説明会、第1回ミーティング (会場：横浜商科大学)

8月4日(土) 報告会 (会場：BWT 本社)

10月6日(土) 学生事業提案コンテスト予選 (会場：快・決いい会議室)

11月24日(土) 学観連講演会での活動報告会 (会場：東海大学)

〈2〉活動報告

[1] メンバー

川瀬寿子、北田百合子、鈴木沙耶佳、田中千絵、林日奈子、平野優太、
元島鉄、諸角智亜

[2] プロジェクト説明会

第1部と第2部で編成され、第1部はBWTの久保田達之助様に「旅のチカラ」を活かしたJTBの事業、そして昨年度の学生事業提案コンテストの映像をもとに大会についてご説明していただいた。

久保田様の講演により、多くの学生が抱えていた「旅＝観光旅行」という固定観念を打ち払い、「旅のチカラ」の持つ多角的な可能性への理解を深めた。

第2部では、第1部での説明を聴いてプロジェクトへの参加意思を固めたメンバーによる顔合わせ兼第1回ミーティングを行った。

[3] 本社報告会に向けて

毎週日曜日に学生ミーティングを、そして月に1・2回の本社ミーティングを行った。

学生ミーティングでは、学生事業提案コンテストの「旅を基軸とした無限の可能性に挑戦」というテーマに沿って、ブレインストーミングや意見交換を行い、その話し合いをもとに各々アイデアを持ち寄った。

本社ミーティングでは、毎回いくつかのビジネスプランを発表し、久保田達之助様、大河内裕樹様からアドバイスいただき、更にはビジネスプランの考え方や分析方法等、学校では学べない実際のビジネスで必要とされる知識を教わった。

最終的に立案したプランは、小学生向けの社会科スクール「JTB ジュニア」である。

(詳細は6ページ参照)

[4]学生事業提案コンテスト予選に向けて

チーム名を、いろいろな大学から成る多様性を表す「ミックスジュース」とした。

コンテスト決勝に勝ち進めるプランとするため、毎週のミーティングに加え SNS を利用したネットでのミーティングも積極的に行った。

8月の報告会時点では、ビジネスプランの細かいところまでは設定できなかったため、既存の学習塾やインターナショナルスクールを例に事業内容や収益構造を考えた。

さらに、提案したプランの実社会での必要性を確立するため、大河内裕樹様のご協力のもと、JATA 旅博 2012 の JTB ブース付近にてアンケートを実施した。

予選会当日もミーティングを行い、プレゼンの練習等の最終確認を行った。

[5]予選会結果

残念ながら、目標としていた本選出場は叶わなかった。

JTB の優位性やマーケティング、事業としての可能性に関しては評価をいただいたが、学校や塾との斬新的な差別化といった、事業内容のツメの甘さへのご指摘をいただいた。

[6]学観連講演会での活動報告に向けて

予選会でのフィードバックをもとに、カリキュラムを学年別に具体的に設定した。

また収益構造に関して、粗さの目立つ計算を見直し、事業の成長とともに利益が増大していけるような仕組みとなるよう、最初から組み立てなおした。

当日の発表者も、予選とは違うメンバーが担当し、改めて自分たちのビジネスプランを見つめなおし共有した。

講演会には久保田達之助様、大河内裕樹様の御二方にもお越しいただき、最終発表への講評や、活動を通しての私たちの成長についてお言葉をいただいた。

●JTB ジュニアについて

*現状分析

- 日本の教育はグローバル化に対応していないと回答した小学生の保護者は実に約9割。
- 「グローバルな社会に対応できる力」が求められているのに日本の教育は全く対応していない。
- 日本においては英語教育が最も重視されがちで、「文化の理解」の重要性はあまり理解されていない。

*JTB ジュニアの意義

今後避けられないグローバル化を見据え、小学生を対象とした受験にとらわれない社会科的知識を学ぶことのできるスクール

- 主に、以下を身につけることを目的としている。
 - ①日本の文化・伝統の理解
 - ②異文化の理解
 - ③コミュニケーション能力の向上
 - ④積極性やチャレンジ精神の向上
 - ⑤一般常識・教養
- 事業の特徴
 - ①グローバル社会に通じる教育
 - ②グループワークなどを実施しやすい1クラス 15人の少人数制
 - ③机上でなくJTBのデータベース、写真、映像を用いた小学生でも楽しめる授業
 - ④習い事感覚で通える週1回45分の放課後スクール形式
- 講師
リタイヤした社会人、高校や大学に勤める非常勤のネイティブの先生

・カリキュラム例

低学年：“まずは世界への興味を持ってもらう”

世界のじゃんけん、世界の民謡音楽/ダンス、世界の祭、国旗、
世界地図パズル、世界のスポーツ/武道 等

中学年：“発展的な「学び」と「学習」”

オリジナルるるぶの作成、習字、英漢字、日本語/英語でことわざ、
伝統工芸体験、レゴで遊ぶ（大学のレゴ部と共同）、世界の民族衣装 等

高学年：“自国文化・異文化への理解”

旅行プラン作成→プレゼン、テーブルマナー、茶道、華道体験、
歌舞伎、寄席、相撲等の日本伝統芸能のバックグラウンドツアー
和菓子/洋菓子作り、英文読解 等

〈3〉 総括

[1] 反省

当初の予定では、8月の報告会の時点で事業提案コンテスト予選に出すビジネスプランを大方完成させるつもりでいた。しかし思うように考えがまとまらず、報告会間際になんとかビジネスプランの大枠が決まった。実際に納得のいくプランが完成したのは報告会后、予選に向けた活動の中であり、ゼロから事業を提案することへの認識が甘かった。

昨年度の反省を踏まえ、ミーティングの頻度の場所もメンバーの納得のいくように設定でき、また Facebook を活用して話し合いもできたので、来年度もチームを組んでの活動であるならば、引き続きミーティングのしやすい環境づくりを目指してほしい。

本年度の活動は、あらかじめ説明会を設定しモチベーションの高い学生のみを募ったため、参加人数が昨年度に比べ大幅に少なかった。

途中で脱落者が出なかったこと、より質の高いプランを作成できたことは大きな収穫である一方、参加者が少数であり、また目標が学観連外部のコンテストへの出場であったために、多くの学生に活動を知ってもらうことができなかった。

来年度への課題として、学生のモチベーションの高さや取り組みやすい環境への配慮をそのままに、より多くの学生に参加してもらえようなプロジェクトを目指してほしい。

[2] 終わりに

昨年度に引き続き、本年度も稚拙ではありますが報告書を作成しました。

学生のうちからビジネスを学べる機会は少ないため、このような活動を提供してくださっている久保田様、大河内様には大変感謝しております。

メンバーのほとんどがビジネスプラン作成の初心者であったため、最初は戸惑うこと・わからないことだらけでした。そのようななかで、御二方に御指導いただき「JTB ジュニア」を完成させることができました。

今回の活動を通して、物事を多角的に捉え考えられるようになったこと、最後まであきらめず仲間と協力して取り組めたことは、これから社会に出る私たちにとって大きな自信につながりました。

今後学観連はさらに活動的な団体となるよう努めてまいりますので、是非ともよろしくお願い致します。